# 北川民次画伯の世界

第12回(大正２年)卒業

## 赤石文男同窓会長が寄贈!!
## 静商ギャラリーに新たな作品群

同窓会より、静岡商業高等学校に北川民次画伯の油彩画（作品題名＝風景　写真左）一点、リトグラフ十四点が寄贈され、贈呈式並びに記念講演、瀬戸市美術館服部館長との懇談会が開かれた。

赤石文男同窓会長は、北川民次作品を、静商同窓会に右記の作品群を寄贈。同窓会は、その全作品を静商ギャラリー充実のため、静岡商業高等学校に寄贈した。

令和元年十二月十八日、贈呈式並びに記念講演会が開催され、作品が披露された。

【贈呈式】

ご来賓、学校関係者、同窓会関係者四十名出席のもと、同窓会赤石会長、石田静商ギャラリー委員長より、中澤校長、静商ギャラリー

北川民次「風景」油絵

母校玄関にて、関係者約40名が出席して贈呈式が行われた。

かえるの館・駒井館長（3年）に北川民次作品が贈呈された。

【静商ギャラリー看板】

贈呈式に伴い、静商ギャラリーの看板が、作品と共に学校玄関に設置されました。

【記念講演会】

演題：「北川民次の凄さ」

講師：瀬戸市美術館

館長　服部文孝様

静商体育館にて、全校生徒、教職員、同窓会員　九百名が出席、聴講した。

服部館長は、北川民次氏のメキシコでの作品の紹介、また瀬戸市に移住してからの精力的な創作活動や、作品について、わかりやすく説明され、瀬戸市美術館には、多くの北川民次作品があり、瀬戸市内には北川民次氏のアトリエが保存されているとの事です。

また、瀬戸信用金庫には、「北川民次ギャラリー」があり、作品を常設、瀬戸信用金庫カレンダーには、毎年北川民次氏の作品が掲載されています。

全校生徒・教職員・関係者が出席して、記念講演会が開催された。(母校体育館にて)

講演会開催にあたり、同窓会より出席者全員に『静商…歴史と文化の足音　北川民次との会話』が資料として配られました。

【懇談会】

講演会終了後、同窓会会議室にて服部館長を囲んでの懇談会が開催されました。

出席者からは、改めて北川民次氏が偉大な先輩であることを再認識したとの多くの声が聞かれました。

また、出席されていた岩崎芳生氏からは、メキシコ時代の作風・帰国後の作品を詳細に説明いただきました。

最後に、服部館長より、北川氏の母校が静商であった事、そして静商が歴史ある学校ということを再認識されたとの講評で、懇談会は閉会となりました。（石）

## 第15回静商二十（はたち）の集い

二〇二〇年一月十三日(祝)クーポール会館にて第119回卒業生「二十(はたち)の集い」を開催。

来賓、恩師の方々そして同期の仲間たち約二四〇名の参加者達に支えられ「二十の集い」は大成功に終わることができました。

多くの出席者から「楽しかったよ」と声をかけていただきとてもうれしかったですし、私もとても楽しかったです。改めて静商のあたたかさと絆に触れ学生時代に戻りたくなりました。

また、会う日まで静商パワーをそれぞれの地で発揮して頑張りましょう。

当日はご多忙の中、ご出席いただきました同窓会役員並びに恩師の皆様に心よりお礼申し上げます。この会を支えてくれた仲間にも感謝を申し上げます。

▼幹事　第119回卒　長島由季

## 女子バスケットボール部を訪ねて

今年一月に市立沼津高校体育館で開催された「静岡県高等学校バスケットボール新人大会」一回戦、65－75で沼津中央高校に負けてしまった。この瞬間、部員は次の高校総体に向け、悔しさを雪辱に燃える心に変えていました。

二月後半からの新型コロナウイルス感染症の影響で、三月二日の卒業式は規模を縮小して開催されたものの、三月十九日からは学校が臨時休校、当然部活動も禁止になりました。練習も出来ず、父母会長からは「子供達がチームで練習できないことは痛すぎ。」のラインを筆者のところへもいただきました。

静岡県高等学校バスケットボール新人大会

コロナ問題に加えて、顧問とコーチ同時の異動が発表され、新顧問はバスケットボール未経験者ということでした。どちらかが残り指導を受けることを想定していた部員も父母会も、精神的な動揺がすごかったと思います。結局校長と父母会が話し合い、異動した顧問に外部コーチを受諾してもらって、新たに大学生の外部コーチを依頼し、それなりに以後の大会に備えることができました。

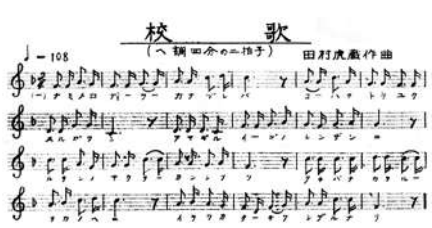
しかしコロナ禍は収束せず、四月二十七日に高校総体の中止が発表されました。救済措置を検討するスポーツ競技もありましたが、バスケットボールは検討されませんでした。五月二十五日に学校が、六月一日から部活動再開が決まりましたが、三年生は最終学年の強い思いを持ちつつ、世代交代の時期を迎えてしまいました。本年度最終公式試合の選手権大会（ウインターカップ）に三年生が何人参加するか、二年生、一年生は消化不良に終わった三年生に、素晴らしい花道を作って欲しいと思っています。過酷な社会情勢の中、特に三年生は活躍の場を削がれて無念な思いが残ることでしょうが、この経験によって逆境に打ち勝つ強い精神力が養われたと思っています。

三年生の父母会の皆様、たいへんお疲れ様でした。それから前顧問の美澤先生、外部コーチありがとうございました。（篠）

## 校歌になぞあり…その2
## このテンポでいいのの巻

平成二十六年発行第二十六号同窓会報に「校歌になぞあり」という記事を掲載した。

今回は、テンポについての「なぞ」である。「今のテンポは遅いのでは…」と指摘するのは、大津哲治氏（第56回卒総代）である。



左上の「♩＝108」がメトロノーム記号で、１分間に♩を108回の速さで演奏することを指示したものである。(楽譜は昭和９年の卒業アルバムより転載)

大津氏は、昭和二十九年母校野球部が夏の甲子園で準優勝した時の応援団長で、体にテンポが染みついている。同窓会の総代会など機会あるごとに校歌斉唱の指揮を任されるがその度に「何かしっくりとこない」と感じていたという。

関西支部支部総会に来賓として招待された際、富坂誠二幹事長(当時。現支部長)に校歌斉唱の指揮を依頼された。「今の校歌は、テンポが遅くなっているような気がするが、富坂どう思う」と聞くと「実は俺も」と彼も同じことを感じていた。

富坂氏は昭和三十年三月卒。大津氏と同期で音楽部出身。卒業後関西に在住し、校歌に触れる機会はなくなった。関西支部が再興されたのを機に校歌を、聞いたり歌ったりする機会が次第に多くなった。多くなるにしたがって「何となく違うのでは」との思いも強くなってきたと言う。

何年か過ぎたとき大津氏から「静商百周年記念史」に「校歌制定の記事があり、楽譜も載っているので見てくれ」との連絡を受けた。

早速、ページをめくると楽譜の左上にメトロノーム記号が書かれていた。「胸が高鳴った。妻と出会った時以来の高鳴りである。」と楽譜との「出会いの感動」を冗談を交えて語ってくれた。

大津氏と富坂氏は、この事実から「校歌についての考察」としてＡ４四枚に考えをまとめた。

その一部を紹介すると

「旋律は、一拍を「波メロディーの波（ウエーブ）にふさわしく表現するために、言葉にすると「タータ」を基調として、最初から最後までこの波を示す旋律で通している。

この波を表現するリズム（拍子）は、快活性、積極性などが快く心に響くべく、行進曲風のリズムである２／４拍子の構成である。

更に、テンポ（速さ）は波の表現が核心である為に、校歌の意とする表現に最もふさわしい「♩＝108（１分間に４分音符を108回）の速さで演奏して歌うべき」と指示している。作曲者がテンポあるいは音の強弱などを具体的に指示することは、自作曲に対して強い思い入れがあるかどうかの判断基準ともいえる。」と書かれている。

この「校歌についての考察」は、両氏から同窓会に出された。同窓会長の力添えで、学校側に提出。校長、音楽部顧問、先生方の理解も得られて、今年の二月から原曲通りの「♩＝108」のテンポで演奏されている。

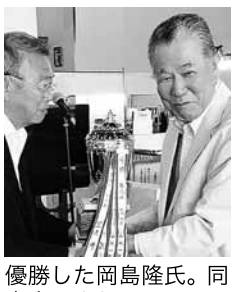
大津、富坂の両氏は、「校歌らしい元気の出るテンポで演奏されたことは、とてもうれしい」と語った。両氏の母校を愛し、母校を偲ぶ真摯な思いが実を結んだ。（飯）

## 第17回同窓会ゴルフ大会
## 優勝　岡島　隆氏（第70回卒）
## レディース優勝　芝原辰子氏（第77回卒）

組織委員会主催による同窓会ゴルフ大会が十月二十一日（水）リバー富士ＣＣで一〇四名の参加者により開催された。コロナ禍の下、開催が危ぶまれたが、マスク・手消毒・検温を実施、三密を避るなど徹底した感染防止策を図り開催した。

当日は快晴の下、まさにゴルフ日和でした。

同窓会長より表彰されるレディース優勝の芝原辰子氏。


優勝した岡島隆氏。同窓会長よりトロフィーが授与された。

優　勝　70回　岡島　隆

準優勝　62回　杉山雅太郎

第３位　57回　望月隆一郎

レディース優勝

77回　芝原辰子

尚、お願事項としまして会長、吉原徹郎よりグランド等整備実行委員会からの件と本部より同窓会費の納入依頼をしました。(文中敬称略・中)

【寄贈者ご芳名】

赤石文男会長（65回）、伊藤副会長（69回）、関原副会長（77回）、山本幹事長（83回）、河口元総務委員長（61回）、八千代寿し鐵、大塩正一（63回）イチウロコ、佐野敏夫（63回）千代田吉野鮨　大塩一義（68回）鈴木精肉店　鈴木輝男（72回）パブ煖　吉田順子（73回）、入船鮨　川澄真一郎（77回）待月楼　八木章夫（79回）昇菊　両角昇吾（83回）、中山事務局長（76回）、岡本政俊ゴルフ長（62回）、古牧組織委員長（71回）（敬称略・順不同）